

一
簣
薦

如簾編竹裏二著白生絹○略○中

一簣薦保安三尊者前簣薦二枚二卷數尊者前永久尊者陪膳取簣薦三枚數五位等昇机立之宰相座手長二人依二行立也

裏白絹 無中倍紙 弘長如机寸法 左右赤系各二雙 中五筋白系立樣編之 公卿柱下許敷之辨少納言上官等机下不敷之

〔類聚雜要抄〕一母屋大饗

忠○通藤原母屋大饗寢殿指圖、東三條殿○中略

机下二ハ簣薦敷之 簣薦ト云ハ竹ヲ御簾ノ様ニ編テ、白生平絹付裏也、弘長机定也、

舊名類聚抄厨膳具油單唐式云鴻臚蕃客等器皿油單及雜物並命少府監支造

〔雅亮裝束抄〕ないらんのいゑにもやのだいきやうをすきのだい饗となづけてせらるゝ事あり。○中略大ばんのばちあしのしたにわたりて、くにのきぬをゆたんにしたるをつけ、大ばんごとのあしのしたにしきまはしたり、うしとらのすみよりはじめてしくなり、このゆたんのすみをばすびつのすみのやうにすぢかへてさばぐちにをるなり、それはかうけのいゑにする事なり、人のする事なれども、おりやうならひたるにあしからず。

卷之三

〔台記〕仁平二年正月廿六日壬戌、今日於東三條再行大饗。朱器正四位下、衣冠青鈍、奴婢來折油單、四角有鰐口、見饗饌篇、辰刻許折了退出泰兼、年來有所勞籠居而依禪閣（藤原忠實）仰扶病參入、仍大饗之間不參、唯爲折油單所參也。○中略。平旦散位高階泰兼朝臣廿七日癸亥撤尊者已下辨已上膳。○中略。饗膳前一日辨備之尊者兩座前、左大臣雖不來備饌、各立朱漆三尺臺。

油單